

第36回 御嶽流神楽大会プログラム

■日時／令和5年10月29日(日)

■場所／御嶽山麓 能場公園【神楽の里】

◎開会行事
(8:30~9:00)

- 1.開会の言葉
- 2.主催者あいさつ
- 3.来賓あいさつ

神楽大会 (8:30~16:00)

1	庭火	御嶽神楽	9:00~ 9:40
2	薙刀舞	竹野浦神楽保存会	9:40~10:00
3	手散米	清川子ども神楽保存会	10:00~10:25
4	平国 (出会い神楽)	緒方・中江・御嶽	10:25~11:10
5	貴見城	竹の中神楽保存会	11:10~11:35
6	五穀舞	御嶽神楽	11:35~12:15
7		休憩	12:15~12:35
8	柴曳 (出会い神楽)	竹野浦・竹の中・御嶽	12:35~13:25
9		舞台整備	13:25~13:30
10	綱武	中江岩戸神楽保存会	13:30~14:10
11	天孫降臨	緒方三社神楽保存会	14:10~14:50
12	八雲払	御嶽神楽	14:50~15:40
13	大神	御嶽神楽	15:40~15:50

◎閉会行事
(15:50~16:00)

- 1.主催者お礼あいさつ

第36回 御嶽流神楽大会



■当日は、JR豊後清川駅より往復でシャトルバスを運行致します。(JR豊後清川駅発~神楽会館経由(駐車場あり)~能場公園)

第36回 御嶽流神楽大会無料シャトルバス運行表

~JR豊後清川駅から神楽会館経由 神楽会場行~

JR豊後清川駅発着時刻		無料シャトルバス発着時刻		
竹田方面 (上り)	大分方面 (下り)	豊後清川駅発	神楽会館発	会場着
7:39	7:50	8:00	8:05	8:15
8:14	8:25	8:40	8:45	8:55
	9:04	9:20	9:25	9:35
10:23	10:02	10:30	10:35	10:45
		11:10	11:15	11:25
11:48		11:55	12:00	12:10
13:16	12:32	13:20	13:25	13:35
	14:14	14:00	14:05	14:15
14:40		14:40	14:45	14:55
15:50	15:23	15:30	15:35	15:45
	16:47	16:20	16:25	16:35

~神楽会場から神楽会館経由 JR豊後清川駅行~

無料シャトルバス発着時刻			JR豊後清川駅発着時刻	
会場発	神楽会館発	豊後清川駅着	竹田方面 (上り)	大分方面 (下り)
8:20	8:30	8:35		9:04
9:00	9:10	9:15		10:02
9:55	10:05	10:10	10:23	
10:50	11:00	11:05		
11:30	11:40	11:45		
12:55	13:05	13:10	11:48	12:32
13:40	13:50	13:55	13:16	
14:20	14:30	14:35		14:14
15:00	15:10	15:15	14:40	
16:00	16:10	16:15	15:50	15:23
16:40	16:50	16:55	17:02	16:47

(令和5年10月30日)

会場周辺の駐車場には、台数に限りがあります。

※会場では、入場料500円(中学生以上)が必要です。

主催：第36回 御嶽流神楽大会実行委員会(事務局 豊後大野市役所 清川支所内)

後援：NHK大分放送局・OBS大分放送・TOSテレビ大分・OAB大分朝日放送・エフエム大分・大分合同新聞社
読売新聞西部本社・毎日新聞社・朝日新聞大分総局・西日本新聞社・シティ情報おいた・ぶんご大野里の旅公社
九州旅客鉄道株式会社大分支社・豊後大野市・商工会清川支部・商工会青年部清川支部

第36回

御嶽流神楽大会

舞手の鼓動や息づかいが伝わる神々の世界へ誘う。

第36回大会 御嶽流神楽大会プログラム

1.【庭火】～御嶽神楽～

この演目は、天岩戸の前で天宇受売命が神楽を奏するにあたり、神々が庭燎を焚く場面を演じるものです。須佐之男命のひどい仕打ちによって、天照大御神は天岩戸に隠れてしまいました。そこで八百万神たちは、天照大御神を外に連れ出そうと思案し、天岩戸の前で天宇受売命に神楽を舞わせようと、庭燎を焚くことにしました。庭燎は赤々と燃え、天岩戸を明るく照らし出したという神話の舞です。

文責：御嶽神楽

2.【薙刀舞】～竹野浦神楽保存会～

佐伯神楽の流れをくむ採物神楽の一つで、薙刀は大きく切れることから、薙刀を依り代とし、諸悪を身辺から切り離す禊祓いを表している。

文責：竹野浦神楽保存会

3.【手散米】～清川子ども神楽保存会～

手散米とは、天照大御神は天熊大人を遣わして大気津比売神の様子を見に行かせた。天熊大人は大気津比売神に生じた稲をはじめ五穀を悉く持ち帰って高御産巢日神・天照大御神に捧げた。天照大御神は大層喜んで、粟・稗・麦・豆を畑の種子とし、稲を田の種子として、天の狭田・長田に植えさせた。秋には見事に稔った。神々はそれを天岩戸に供えたという神話の舞です。

文責：清川子ども神楽保存会

※出会い神楽※

4.【平国】

～緒方三社神楽保存会・中江岩戸神楽保存会・御嶽神楽～
平国とは、伊邪那美命は、迦具土神を生んだとき、身体の一部を焼かれて死んでしまいました。妻を殺された伊邪那岐命は、

迦具土神を斬り殺してしまいました。その時、石に飛び散った血から生じた、四神の荒魂を鎮めるといふ神話の舞です。

文責：御嶽神楽

5.【貴見城】～竹の中神楽保存会～

古事記・海神宮・日本書紀・海幸山幸を題材としたもので、瓊々杵尊の子の火闌降命彦火々出見命という兄弟神の物語です。二人はそれぞれが持っていた釣竿と弓矢を交換しました。弟神彦火々出見命が兄神火闌降命の釣竿で魚を釣っていたところ釣鉤をとられてしまい別の釣鉤を作り兄神火闌降命に返したが、元の釣鉤返還強要に弱っているとき、海神の助けで海神宮(貴見城)を訪れ釣鉤を探し出すという舞です。

文責：竹の中神楽保存会

6.【五穀舞】～御嶽神楽～

五穀舞とは、五穀紀元の舞です。高天原を追放された須佐之男命は、食べ物を探して歩いているとき、八百万の神に食物を差し上げている大気津比売神に出会った。その様子を見ると、鼻・口・尻から食べ物を取り出している。これを見ていた須佐之男命は、自分にも汚い物を食べさせるのだと思ってお怒りになり、大気津比売神を斬り殺してしまった。ところが、殺された大気津比売神の頭に蚕が、二つの目から稲が、二つの耳に粟が、鼻に小豆が、陰部に麦が、尻に大豆が生じた。これを御覧になった神産巢日神は、八百万神たちにこれらを取らせて、農作物の種子にしたという神話の舞です。

文責：御嶽神楽

※出会い神楽※

8.【柴曳】

～竹野浦神楽保存会・竹の中神楽保存会・御嶽神楽～
柴曳は大変喜ばれる神楽です。

天の岩戸にお隠れになった天照大御神に出ていただくために、天児屋命と布刀玉命が天香具山の真榊を根こそぎにするという

神話の舞です。

文責：御嶽神楽

10.【綱武】～中江岩戸神楽保存会～

須佐之男命は、天照大御神の御田を荒らし、生馬の皮を剥いで、機屋の中に投げ込むなどのいたずらを繰り返した。そこで怒った天照大御神は八百万の神々に命じて須佐之男命をこらしめて、乱暴するのを防ぐという物語です。

文責：中江岩戸神楽保存会

11.【天孫降臨】～緒方三社神楽保存会～

天照大神から三種の神器を授かり、皇孫天津彦火瓊瓊杵尊は諸神を引き連れ、猿田彦命の先導で、日向の高千穂峯に降られる神話の舞である。

文責：緒方三社神楽保存会

12.【八雲払】～御嶽神楽～

八雲払とは、八俣大蛇の物語です。高天原を追放された須佐之男命は、出雲の国の簸の川に降りました。そこで、足名椎・手名椎と櫛名田比売と出会います。何度も醸した強いお酒を用意させて待ち構え、そのお酒を呑み酔って眠ってしまった八俣大蛇を退治し、尾から取り出した草薙剣を自分の姉である天照大御神に献上して許しを受け、約束どおり櫛名田比売と結ばれ、須賀の地に鎮座したという神話の舞です。

文責：御嶽神楽

13.【大神】～御嶽神楽～

大神とは、最終の神楽として舞う神楽です。神前において、無事に神楽奉納を終えたことを感謝し、天下泰平を祝い、舞い納める神楽です。

文責：御嶽神楽

※文章・ふり仮名は、全て原文のままです。